

2016 年度活動報告 CJP 授業：レギュラー 2

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

早川 杏子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、初級後半の学生を対象とし、1) 初級後半の表現を使って、日常会話ができるようになる、2) 身の回りのことについて、事実や感想をまとめた長さで表現できるようになる、の2つを目標とした。教科書は、『まるごと 日本のことばと文化 初級2 A2 りかい』『同 かつどう』をメイン教材として使用した。扱った課は第1課～第10課、第13課～第14課である。

2. 授業内容

本授業を選択するのは、現代日本専攻の学生であり、授業回数は週3回と多くはない。しかし、本授業受講後の次の学期に継続して受けることができる「レギュラー3」の授業がなく、このため、日本語学習を続ける場合、日本語専攻でレベル2を修了した学生と同じ選択科目を受けることになる。よって、日本語専攻とは別のトラックでありつつも、次の学期に日本語専攻レベル3の学生と共に学べるだけの日本語力を身につけることが求められているため、授業で扱う文法や語彙はレベル3を見据えて選択し、口頭練習を授業で多く取り入れ、授業外で文法や語彙を学び、作文を書くような授業設計を行った。1課あたりの授業は3回を当て、具体的には、1) 前課の復習とクイズ、当課の語彙の確認と文法と口頭練習①、2) 当課の文法と口頭練習②、3) 作文・読解に分けて行った。中間試験と期末試験は、それぞれ筆記試験（語彙・文法・作文）と会話試験を行った。

3. 成果と今後の課題

授業アンケートでは、授業に対する満足度では否定的な選択肢を選んだ学生はいなかったが、「どちらでもない」を選んだ学生が半数おり、満足度が高い授業とはいえなかった。具体的に見てみると、授業の進度や宿題の量、教員からのフィードバックにはおおむね満足していたが、話す活動、聞く活動、読む活動に対する満足度の最頻値が「どちらでもない」となっており、ここに改善の余地があると考えられる。前述したように、本授業は週3回の授業であり、学生が希望する活動をすべて取り入れるのは難しいが、今後は現在の進度を保ちつつも、四技能を伸ばす活動を授業内にさらに積極的に取り入れることを課題としたい。